

## ぶらっと散策 4

## 第 6 回探訪 伊丹行基コース

2023 年 10 月 5 日(9:15~12:00)

(参加者 28 名、欠席者 8 名、CA 3 名)

阪急伊丹駅に 9 時 15 分に集合し、バスで「スワンホール前」まで移動し、伊丹文化財ボランティアのガイドさん(5名)から本日の行程などについて説明を受けた。



少し歩いて昆陽池公園の入口についた。昆陽池は 8 世紀前半に高僧行基が築いた池で、当初は昆陽上池・同下池・院前池など 5 つの灌漑用水池や 2 本の溝が作られたとされている。このうち現在まで残っている昆陽池は、伊丹市が昭和 35 年に池の約 1/3 を埋め立て、43 年には一部公園化した。

昆陽池公園内にある自然池の中には、日本列島を模した野鳥の島があり、昆陽池公園のシンボルとなっている。



次に訪れたのは、首切り地蔵である。江戸時代に大名行列を横切った子供が無礼打ちにされ、それを哀れんだ村人が地蔵さんを祀ったとされている。



この後、しばらく旧西国街道を歩いた。この途中に、稲野小学校前に「すぐ京都」、「すぐ中山、小濱」などと刻まれた道標や稲野村の道路元標があった。また、昆陽宿の本陣跡とされる「佐藤家」の前に来たが、往時を偲ぶような跡形はほとんど見られなかった。



次に西国街道の途中にある東天神社を訪れた。ここは天平年間に行基が昆陽大池など猪名野笹原を開拓した時にその事業達成の祈願所とした由緒ある神社とされている。

祭神はイザナギノミコトとイザナミノミコトの御夫婦の神様で万物の生みの祖神として「息災延命長寿」の信仰を以て尊崇されている神社とのこと。祀られている神様が夫婦ということで夫婦和合などのご利益もありそうです。



東天神社からさらに西に向かうと長勢橋(ちょうぜいばし)の碑があった。幕末に起きた蛤(はまぐり)御門の変で敗走した長州勢がここにあった橋で踏みとどまって戦ったといわれている。



次に訪れたのは行基が掘ったと伝えられている井戸、関伽井(あかい)。関伽井の水は客への接待の時に捧げられる浄水で、西国街道に面しているために病人の救護の水として、また旅人の水として与えられ、休息の場として喜ばれていた様です。



その近くにある正覚院は、行基が建立した昆陽寺の塔頭寺院の1つで、高野山真言宗の寺院です。伊丹七福神の毘沙門天を祀る寺院とのことであり、現在の本堂は、1979年に建て換えられた建物である。当院には江戸時代後期の国文学者である夏目夔磨の墓があるとのこと。



最後に訪れたのは、行基とのゆかりが深い昆陽寺(こやでら)です。行基は、現在の兵庫県と大阪・京都府に49の寺院を建てたほか、信者の協力のもとに用水池や溝、道や橋、そして簡易宿泊施設である布施屋や、民のための寺である院をつくった。この昆陽寺の前身は、奈良時代に行基が貧民救済のために作った施設「昆陽施院」である。昆陽寺は1,579年に織田信長が有岡城主荒木村重を攻撃したときに焼失、江戸時代に再建された。

国道に面して立つ、鮮やかな朱塗りの山門には、左右に阿吽一對の仁王像がある。山門門をくぐった先の境内の真正面に見えるのが本堂(薬師堂)である。本堂には、行基作と伝わる昆陽寺本尊の薬師如来像が安置されている。

その他、鐘楼、観音堂、行基堂(開山堂)などが配置されている。



山門



本堂(薬師堂)



観音堂



行基堂

帰りのバスの都合もあり丁度12時に探訪を終えた。先日までの暑さも収まり、気持ちよく探訪することができた。

(担当:3班 TS)